

看護学科

看護基礎科学講座

看護機能形態学

原 著

- 1 Sherriff-Tadano R, Ohta A, Morito F, Mitamura M, Haruta Y, Koarada S, Tada Y, Nagasawa K, Ozaki I: Antifibrotic effects of hepatocyte growth factor on scleroderma fibroblasts and analysis of its mechanism. *Modern Rheumatology* 16, 364-371. 2006.
- 2 シェリフ多田野亮子, 大田明英: 血液透析患者におけるストレスの認知に関する研究. *日本看護科学会誌* 26: 2, 48-57. 2006.

学会発表

全国規模の学会

- 1 シェリフ多田野亮子, 吉田俊昭, 宮原晋一: アスベストによる悪性肺中皮腫患者の家族についての基礎的看護研究〔症例報告〕. 第26回日本看護科学学会学術集会. 神戸. 2006, 12, 3. *日本看護科学会誌*. 第26回学術集会講演集26: 153.
- 2 シェリフ多田野亮子, 田中文子, 吉田俊昭, 宮原晋一, 尾原多津子, 内藤ケイコ: アスベスト外来を受診する患者の不安と精神健康状態〔中間報告〕. 第26回日本看護科学学会学術集会. 神戸. 2006, 12, 2. *日本看護科学会誌*. 第26回学術集会講演集 26: 320.

看護援助学

原 著

- 1 藤田佳代子, 井上範江, 児玉有子, 川本利恵子: 日常生活援助場面におけるナースの倫理的葛藤. *臨床看護* 32: 1, 84-90. 2006.
- 2 鳩山淳子, 井上範江, 児玉有子: 心疾患を発症した壮年期男性患者の妻の心理的危機プロセス. *日本クリティカルケア看護学会誌* 1: 3, 25-34. 2006.
- 3 高橋甲枝, 井上範江, 児玉有子: 高齢者夫婦二人暮らしの介護継続の意思を支える要素と妨げる要素. *日本看護科学会誌* 26: 3, 58-66. 2006.
- 4 内川洋子, 吉田道雄: 看護師長のリーダーシップ行動測定尺度—リーダーとしての自分を知る—. *メヂカルフレンド社・看護展望* 31: 1, 30-34. 2006.

学会発表

全国規模の学会

- 1 福田和美, 井上範江, 分島るり子: 患者—看護師間の共感に関する研究 —乳がん患者が感じた看護師の共感的な関わりとその影響—. 第32回看護研究学会学術集会. 大分. 2006, 8, 24. *日本看護研究学会雑誌* 29(3): 209.
- 2 古島智恵, 井上範江, 児玉有子, 分島るり子: 不眠を訴える入院患者に対する足浴ケアが睡眠へ及ぼす影響. 第32回看護研究学会学術集会. 大分. 2006, 8, 25. *日本看護研究学会雑誌* 29(3):

258.

- 3 岩本理恵, 井上範江, 分島るり子: 自己超越傾向と主観的健康感に関する研究一年齢, 性別, 職業, 自由な時間の満足度に焦点をあてて一. 第26回日本看護科学学会学術集会. 神戸. 2006, 12, 3. 日本看護科学学会学術集会講演集, 456.
- 4 小林幸恵, 内川洋子, 分島るり子, 古島智恵, 井上範江: 臨床看護師が解剖生理学的知識の必要性を認識する経験. 第32回看護研究学会学術集会. 大分. 2006, 8, 25. 日本看護研究学会雑誌 29(3): 225.
- 5 児玉有子, 井上範江, 分島るり子, 古島智恵, 吉武美佐子: 石鹸清拭時の皮膚温表面の水分量, 油分量, pH の変化ーウォッシュクロスとボディスポンジの比較. 第26回日本看護科学学会学術集会. 神戸. 2006, 12, 3. 日本看護科学学会学術集会講演集, 346.